

# 平塚市学校施設の個別施設計画（素案）【概要版】

## 1 背景、目的と位置付け

### 策定の背景

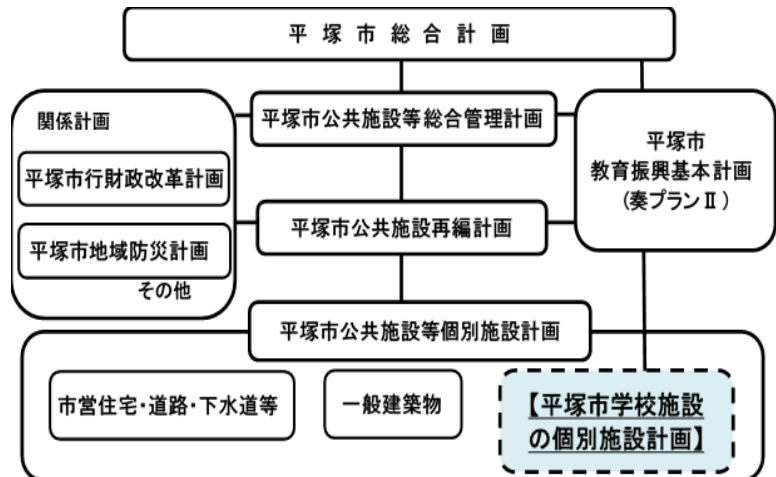
今後、人口減少による様々な社会情勢の変化が伴うなかで、将来にわたり幼児、児童及び生徒にとってより良い教育環境を確保し、学校施設の適正な維持管理を行うためには、適切な時期での改修や建替えに加え、学校自体の在り方も含めて検討を行うことが必要です。

### 目的

本計画は、学校施設の長寿命化を基本とした改修を行うとともに、必要に応じて適正な規模に再編することで、維持管理コストの縮減及び平準化を図りつつ、教育環境の充実を進めることを目的とします。

### 計画の位置付け

本計画は、「平塚市総合計画」及び関連する諸計画との整合を図りつつ、「総合管理計画」及び「再編計画」に基づく個別計画として、最適な管理運営の実現を目指します。



## 2 対象施設、計画期間

### 対象施設

小学校28校、中学校15校、幼稚園2園全ての施設を対象とします。

### 計画期間

本計画は、概ね5年を周期として見直しを行い、財政状況及び社会情勢の変化を反映させながら、10年以上の計画となるように更新していきます。

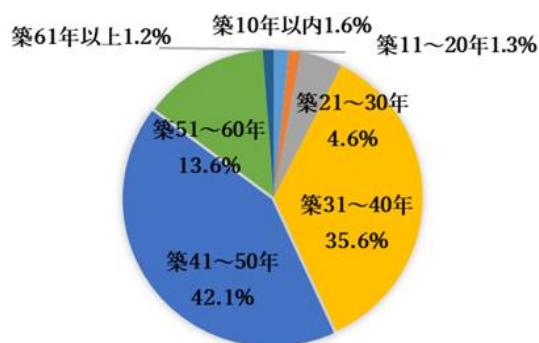
	令和元年度 (2019年度)	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8～12年度
総合計画	平塚市総合計画						次期総合計画	
平塚市行政改革計画	行政改革計画		次期行政改革計画				次期計画	
公共施設等総合管理計画	計画の見直し						計画の見直し	
公共施設再編計画	総合管理計画(概ね5年ごとに見直し10年以上の計画となるように更新)							
平塚市公共施設等の個別施設計画	計画の見直し		再編計画(概ね5年ごとに見直し10年以上の計画となるように更新)				計画の見直し	
教育振興基本計画	奏プラン		第2期教育振興基本計画～奏プランⅡ～				次期計画	
学校施設の個別施設計画	事業の実施(概ね5年ごとに見直し10年以上の計画となるように更新)							

### 3 学校施設を取り巻く現状

#### 築年数、目標耐用年数

現状では、56.9%の施設が築後40年を経過し、92.5%が築後30年を経過しています。

また、学校施設の多くは鉄筋コンクリート造建てられており、その目標耐用年数は総合管理計画に基づき、76年（JR東海道線平塚駅南側施設は塩害等を考慮し60年）としています。



#### 児童・生徒数の推移等

小学校の児童数のピークは昭和57年で、現在は12,324人、507学級となっており、ピーク時と比べ児童数で49.2%、学級数で19.7%減少しています。

中学校の生徒数のピークは昭和61年で、現在は6,287人、223学級となっており、生徒数で48.6%、学級数で25.4%減少しています。

幼稚園については、令和2年4月にはさくら幼稚園及び金目幼稚園が廃園となりました。

### 4 学校施設の状態等

#### 利用状況等

小・中学校では、児童及び生徒数の減少に伴い、通常の学級としての教室利用は減少傾向にありますが、学力向上を目的とした少人数による指導を行うための教室は、引き続き必要とされています。さらに、特別支援学級等、障がいに応じた指導をする学級が増えるとともに、個に応じた支援が必要な児童及び生徒も増加傾向にあり、インクルーシブ教育の観点から、その対応のための教室も必要となっています。

余裕教室については、放課後児童クラブへの転用や防災備蓄倉庫として活用されています。

主に体育館については、災害時には避難所としても利用され、地域における様々な役割を担っています。

幼稚園については、幼児は減少傾向にあり、定員を下回っている中での学級運営を行っています。

### 5 学校施設の方向性の考え方

学校施設は、計画的な改修によって機能の向上及び長寿命化を図ることで、常に最適な教育環境を確保するとともに、維持管理コストの縮減や平準化に繋げることを基本とし、施設の改修や建替えが必要となる時期に合わせて、短期的には施設の規模の縮小や有効活用等、中長期的には学校の統合や複合化等といった施設の再編も検討します。

これにより、将来にわたり安心・安全で充実した教育環境が提供でき、さらに将来世代への負担軽減にも配慮した学校施設の最適化の実現を目指します。なお、幼稚園については、園を取り巻く社会状況の変化等を総合的に見極め、その在り方について検討します。

## 6 対策内容と実施時期

### 保全に関する基本方針

計画的な施設の改修により、安全性や快適性等の向上に繋げるとともに、環境への配慮やバリアフリー等が図られるよう、教育環境の充実及び長寿命化を図ります。

改修工事では、主に外壁の塗り替え、屋上防水、トイレの洋式化及び照明のLED化等を実施します。

なお、安全確保に関わる緊急性の高い改修等は最優先で実施し、幼児、児童、生徒及び教職員の安心・安全な教育環境を確保していきます。

### 再編に関する基本方針

今後の学級数の推移が横ばい又は減少傾向にあることや、校舎の棟数が2棟以上あることを基に築年数等から総合的に判断し、施設規模の縮小及び有効活用を検討します。

なお、検討にあたっては少人数指導や特別支援学級の増加、及びインクルーシブ教育等に配慮します。また、余裕教室が生じた校舎への放課後児童クラブ等、施設の有効活用に向けて必要となる改修を計画します。

将来における学校同士の統合や小中一貫校等、最適な教育環境を目指すため施設の統合や複合化等の再編を検討します。

なお、検討にあたっては児童及び生徒数、学級数、通学区域、避難所及び地域コミュニティー等に配慮し、学校や地域住民との意見交換を行いながら進めていきます。

また、目標耐用年数を過ぎた施設の建替えにあたっては、校舎の配置状況等の各学校の状況や、施設の再編について検討したうえで進めます。

### 計画期間における対策内容

各学校施設における今後10年間の対策内容を「各学校施設の計画表」に示します。

改修については、今後10年間で総額約80～90億円の費用がかかる見込みのため、継続的な財源確保が必要です。

なお、中学校施設については、令和6年度からの完全給食開始に向けて、給食受入れに伴う施設整備を進めます。

## 7 今後の対応方針と本計画の実現に向けて

長寿命化に向けた改修については、対象施設の状況を常に把握し、優先順位の更新を図りながら実施します。

学校施設の建替えや統合、複合化等の検討にあたっては、庁内における研究・検討体制を整備するだけでなく、学校や市民との意見交換を図る仕組みづくりを進めます。

平塚市学校施設の個別施設計画【概要版】 令和3年 月

平塚市教育委員会 学校教育部 教育施設課  
〒254-8686 神奈川県平塚市浅間町9番1号  
電話 0463-35-8115 (直通)